

山梨

東京

丹沢

富士

箱根

## ニホンジカ管理の現状と課題

神奈川県自然環境保全センター  
山根 正伸

1

### 丹沢山地におけるシカ問題の変遷

戦後 シカ乱獲による絶滅の危機

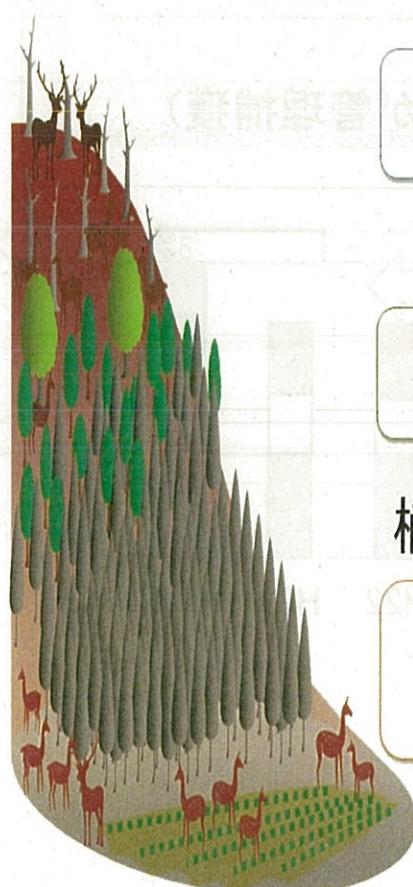
シカ猟の禁止

1960年代から 植林地の苗木の食害

植林地の防鹿柵、猟区・保護区設定、捕獲解禁

1980年代から 林床植生の退行がはじまる  
1990年代から 保護区でシカの高密度化

現在まで、林床植生に対するシカ影響は継続  
山麓では、農作物被害も深刻化



2

# 近年におけるシカ保護管理の取組

2003～2006年度 神奈川県ニホンジカ保護管理計画

- ・保護管理計画に基づく科学的な管理がスタート

2004～06年 丹沢大山総合調査  
2006年丹沢大山自然再生基本構想



2007～2011年度 第2次神奈川県ニホンジカ保護管理計画

- ・取り組みを強化(通年管理捕獲、メスジカ捕獲など)

第2次計画の実施状況・事業点検



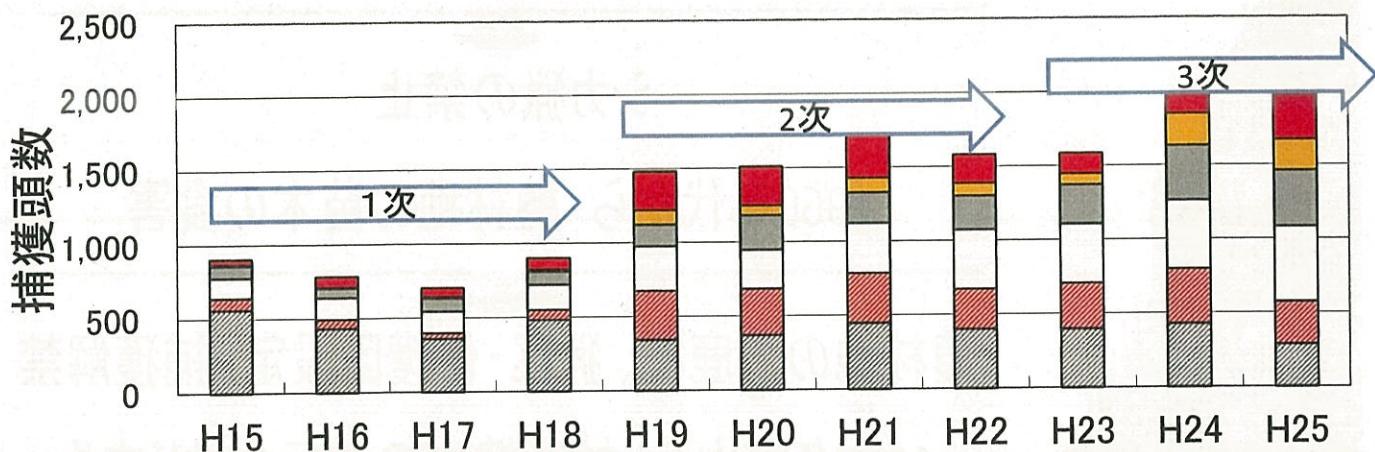
推定生息数3000～5500頭

2012～2017年度第3次神奈川県ニホンジカ保護管理計画

3

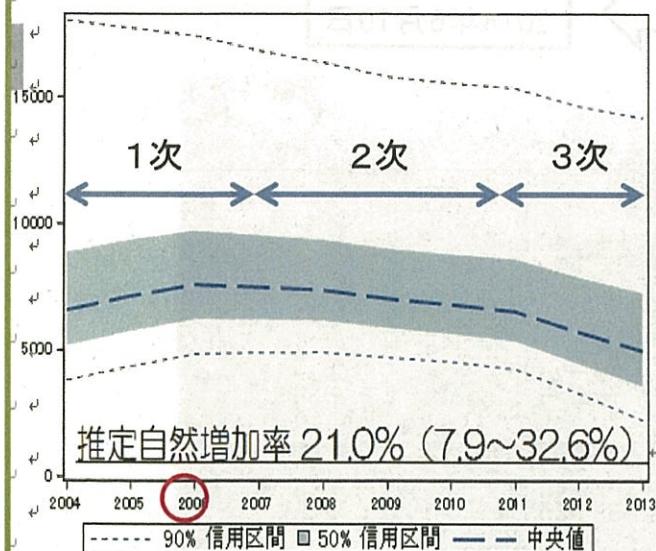
## 特定計画策定後の捕獲状況

- ・県管理捕獲を導入し、捕獲を強化
- ・第3次計画では、捕獲数は約2,000頭(約7割が管理捕獲)



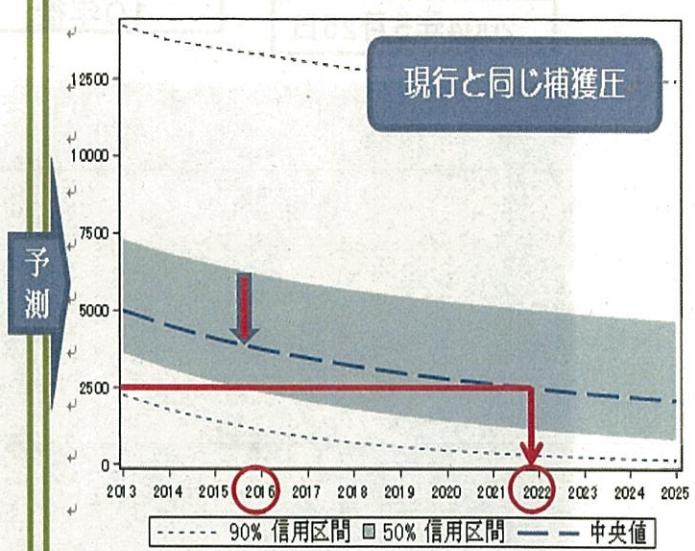
# 生息数推定(階層ベイズ法)の結果

## ＜個体数の推定結果＞



※個体数は2006年以降、管理捕獲の強化の成果があらわれて減少傾向に変化。

## ＜捕獲計画に沿った個体数の予測結果＞

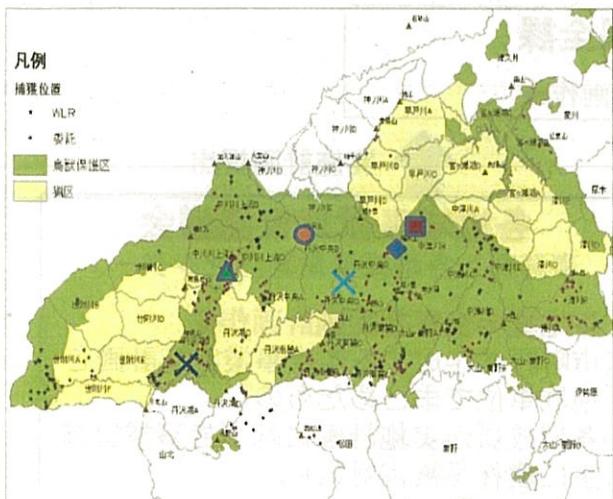


※現行と同じ捕獲率で捕獲を続けると、50%以上の確率で、2022年には、個体数が半減。

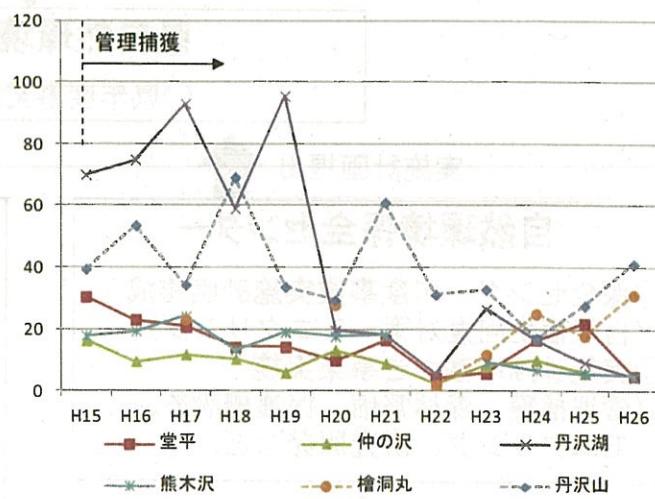
5

## 高密度地区での継続的な管理捕獲実施

- 高密度・植生影響の強い地区(管理ユニット)から捕獲着手
- 3次計画に入り、高密度地区の大半で大幅な低下達成
- その結果、下層植生回復などの変化も確認



H26管理捕獲(植生回復・生息環境)の捕獲地点



推定生息密度(区画法)の推移 (H15-26)

6

# シカ管理、土壤保全等の統合的な取組の成果 東丹沢堂平

2004年5月25日

10年後

2014年6月10日



写真：鈴木雅一 氏

7

## 計画の推進体制

P・D・C・A

### 県鳥獣総合対策協議会(シカ対策専門部会)

事務局：県自然環境保全課

協議・評価

### 県自然環境保全課

○県年度事業計画作成

実施計画提出

### 自然環境保全センター

- 保全センター年度事業実施計画作成  
(自然植生回復対策・モニタリング)
- 実施計画に基づき事業実施  
(管理捕獲、森林整備、保護柵設置、  
モニタリング、研究開発など)

実施計画提出

### 各地域鳥獣対策協議会

事務局：各地域県政総合センター

- 各地域年度事業実施計画作成  
(市町村が作成する年度事業実施計画を  
地域単位でまとめたもの)
- 各構成員が実施計画に基づき事業実施  
(主に農林業被害対策)

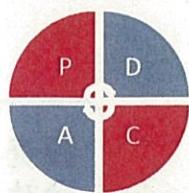
#### 【構成員】

県、市町村、農業協同組合、森林組合、  
県獣友会支部等

評価・助言

### ニホンジカ保護管理検討委員会

8



# 計画の策定・見直し

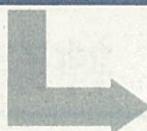
ユニット単位の  
モニタリング

- 生息状況(区画法、糞塊法、行動域、目撃&捕獲効率、個体群の質)
- シカ影響(植生変化、累積利用圧、農林業被害)



県管理捕獲での  
捕獲情報収集

- 実施内容
- 捕獲地点
- 捕獲個体の年齢  
体重、質、妊娠

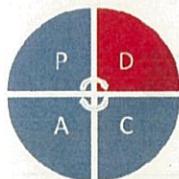


科学委員会での  
検討・評価



年次実施計画・次期  
特定計画への反映

9



## 捕獲の実行体制 (Do)

立地・被害内容に応じた丹沢全体の実行体制を段階的に構築  
「住み分け」と「モニタリングに基づく年次捕獲計画」

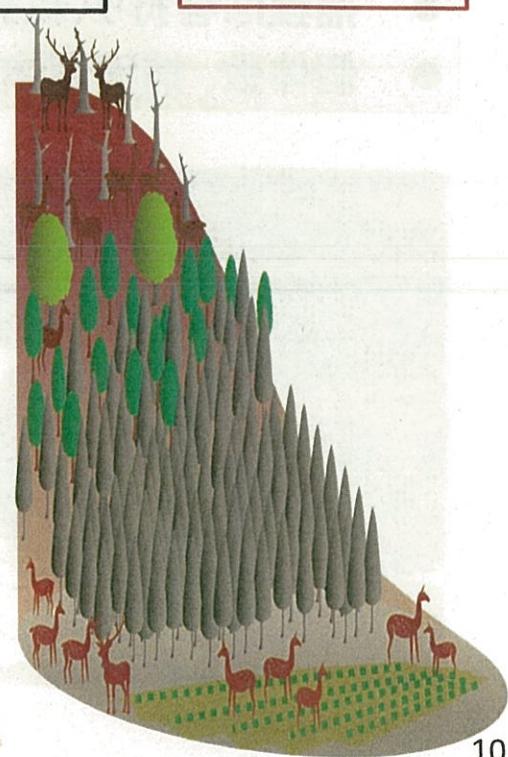
「すきま」のない  
捕獲の展開

**捕獲困難地・空白域**  
→ワイルドライフレンジャー捕獲

**中高標高地の組獵適地**  
→県委託管理捕獲

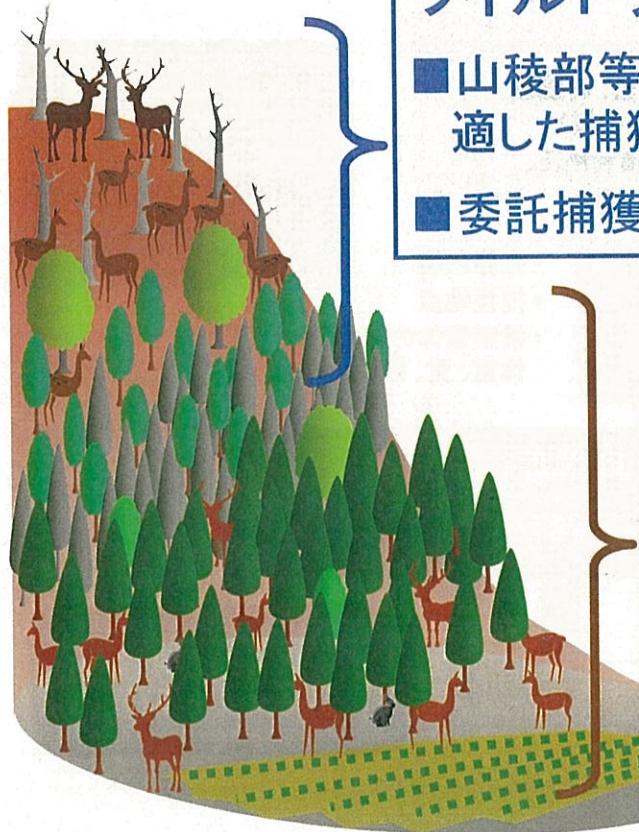
**山麓域の農地周辺・里山**  
→市町村管理捕獲

**捕獲に適した地域**  
→狩猟



10

# 管理捕獲の住み分け



## ワイルドライフレンジャー

- 山稜部等の組猟困難地に適した捕獲手法を検討・実践
- 委託捕獲の支援・指導

支援  
・  
指導



調査  
会社  
連携  
協働  
捕獲  
NPO  
わな  
会社  
等

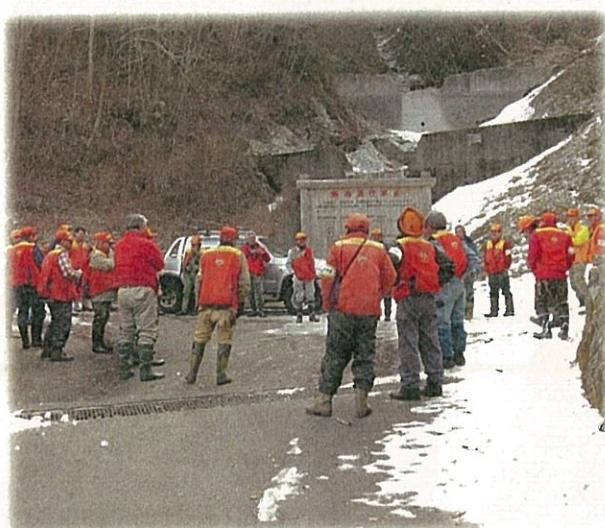
## 神奈川県獣友会

- 中・高標高域で水源林周辺を含めて委託捕獲を実施
- 低標高域で市町村等の依頼により地元支部が管理捕獲(被害軽減)を実施

11

## 自然植生回復のための管理捕獲

- 県が県獣友会へ委託し、中高標高域で、計画的な捕獲を実施
- 捕獲は巻狩り(組猟)が主体
- 個体数、捕獲個体の質、植生等もモニタリング



### 過去3年間の実績

H25	340 頭	
H26	336 頭	83回
H27 *	264頭	85回
(* 1月末現在)		

	H19	H22	H24	H26
捕獲効率	0.30	0.25	0.21	0.16
目撃効率		0.65	0.50	0.57

12

# ワイルドライフレンジャーによる捕獲

- 野生動物保護管理や狩猟の専門的知識・能力・技術を有する職員
- 3名(H24~25) → 5名(H26~)
- 業務は
  - 1 山稜部(保護区)等捕獲困難地でのシカ捕獲
  - 2 県獵友会による委託捕獲の指導監督
  - 3 シカ捕獲に関する情報分析

## 過去3年間の捕獲実績

H25 177頭 (メス 107頭)

H26 188頭 (メス 108頭)

H27 237頭 (1月末現在)



- 忍び猟と流し猟が中心
- 追い出し猟、囲いわな・足づくりわな猟
- 少人数巻狩りも試行(県獵友会との連携)

## 目標達成に向けた課題 人材育成関係

### 行政人材

- ・計画策定・事業運営の専門人材の継続的育成確保  
(研修、資格、人事 等)
- ・情報分析・技術開発・外部連携人材の配置

### 捕獲事業実施者

- 管理捕獲
  - ・地元調整・現場管理
  - ・柔軟な捕獲技能(銃猟、罠猟、新たな手法等)
- レンジャー捕獲
  - ・業務に見合う(捕獲と調査経験の双方)人員確保・育成
  - ・持続的な雇用

業務を補完する  
官民専門人材(大学・調査会社等)  
も必要

# 目標達成に向けた課題 指定管理鳥獣捕獲等事業の推進関係

## 既存事業とのすみ分け

- ・市町村許可捕獲(農林業被害)、狩猟等との調整
- ・捕獲困難地・遠隔地での事業推進(事業者確保、環境整備)

## 事業評価への対応

- ・目標達成、効率性； 捕獲困難地・遠隔地、低密度地での評価等
- ・情報収集； 評価目的と改善目的の2本立て

## 実施事業者確保と指導・監督

- ・競争性の確保； 資格、格付け
- ・適正な事業推進； 目標達成 vs 安全確保、各種トラブル防止



神奈川県

# 二ホンジカのこと、 もっと知ってください

丹沢における二ホンジカの保護管理の取り組み

